

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎗木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

舟を編む----- 西坂 逸夫 技術者会との絆----- 和田 吉茲  
吾輩も猫である----- 今井 章文 頭痛膏----- 林 久子

## 天災は忘れたところに...

坂田 和孝

「天災は忘れた頃にやってくる」という諺がある。しかし最近では、忘れる暇がないほど日本各地で様々な天災が起きています。昨年1年間を振り返ってみても台風、竜巻、それに「これまでに経験のない」と表現された集中豪雨や豪雪。あちこちで地震が発生し、さらには火山噴火まで起こり、それぞれ大きな被害をもたらしました。被災された方々はもちろんのこと、ご家族等が受けられた苦痛や哀しみは計り知れない。

その中で個人的に強く記憶に残っているのは、広島集の中豪雨で、多くの家屋が倒壊や土砂に埋もれる等して70数名の方々が亡くなられた。もう一つは、御嶽山の噴火である。活動中の火山とはいえ、まさか登山中に噴火するとは誰も考えなかったに違いない。そしてここでも多くの人々が被災されたが、捜索隊による懸命の救出活動にも拘わらず今も発見されない方がいる。話は変わるが、私にも忘れることの出来ない体験がある。それは平成7年に起きた阪神淡路大震災である。1月17日の早朝、突然激しい揺れに襲われた恐怖は今でも忘れることができない。当時は西宮市内に住み関西国際空港に勤めていたが、「震度7」の激しい揺れに空港島と対岸を結ぶ連絡橋が、きつと落ちてしまったに違いないと思った程である。

平成23年3月11日には東日本大震災が起こり地震と津波によって、言葉では言い尽くせない甚大な被害をもたらしたが、この時以来、日本は天災が頻発する国になってしまったようだ。他にも長野で強い地震があり、阿蘇山や吾妻山の活動が活発になり噴火が懸念される状況のようだ。信じたくないが富士山でさえ噴火の可能性があるそうだし、我々が住む関東地方では、そう遠くない時期に大きな地震が高い確率で起きると予想されている。

日本列島はこれから先、何が起きるか分からないといったところだ。いくら文明が発達しても、天災には勝てない。叶わぬ願いではあるが、こんな天災が起きないで欲しいと祈らずにはいられない。

(編集委員)

## 舟を編む

二〇一二年本屋大賞受賞の『舟を編む』を読んだ。

作者の三浦しをん氏は、〇六年の直木賞を二十九才で受賞した期待の若手作家であり、話題作を何冊か発表している。まだ読んでおられない方には是非お勧めしたいユニークな一冊である。

詳しい内容は省略するが、題名の意味は、「辞書は言葉の海を渡る舟だ」から来ている。あらずじはある出版社で辞書『大渡海』が完成するまでの過程とそれに携わる人たちの人間模様を描いている。一見して分かりきった？言葉を文字数の制約の中で別の表現で説明し、誤解されないように留意し、且つ同類の辞書の丸写しではないこと、利用対象者（一般・小中学生など）を想定した言い回し、売れる商品としての価値をつけて他商品との差別化を図って

完成させる。

無限大ともいえる「言葉」の中から掲載対象の言葉を選定し、想像以上の苦労を経て完成させていることがよくわかり、一気に読んでしまった。そしてどんな仕事でも、それに打ち込む姿は美しく、感動する。時間を超越し、わき目も振らずに一つの仕事に没頭できることが、本人にとっ

ていかに幸せであることか。仕事の内容が違うが、自分も若かりし頃仕事が楽しくて仕方なかった時期があり、充実した時期であった。

以前、テレビのあるバラエティ番組で、一つの言葉を設定し、辞書に載せる説明文をゲストに答えさせるものがあつたが、これも楽しかった。これにヒントを得て、ただ辞書を読むだけではなく、自分なりの辞書（説明文）を考えるのもボケ防止になるかもね。

（染井野 西坂 逸夫）

## 技術者会との絆

昭和36年、千葉県京葉地区企業所属の冷凍、空調技術者の賛同を得て、冷凍機運転技術の向上と会員相互の親睦を図る目的で千葉地区冷凍技術者会が設立され、今年で53年目になります。

千葉市に扇屋百貨店が開店した年でもあり、商業ビル施設も多数建設されました。

空調技術者の求人も多くなり、冷凍から空調へと転職する技術者もいました。

完成後の空調設備見学に行き、作業着が汚れて当り前の我が職場と比べ、空調の職場は監視業務が主体で清潔な職場環境に憧れを抱いたものです。

上司が初代会長に就任したことも有り、冷凍機械運転保守業務に従事しながら最年少で参加し、会員の方々と情報交換を重ねて異業種の実情を知るよい機会となりました。

当時は、自然冷媒のアンモ

ニアから化学合成冷媒フロンへ転換する時期で業界では夢の冷媒であると評価の高い冷媒でした。現在は、オゾン層破壊原因と判明し、生産を制限されています。

最近、規制の効果があがりオゾン層も少しずつ回復しており喜ばしい限りです。

私も、転勤による入退会を繰り返しながら延べ40年近く会員として留まっています。

設立時の会員は、私以外おりませんが、各企業の後輩技術者が会員となっています。

年間行事として、年2回の施設見学会、懇親会での意見交換、大気中の自然エネルギーの活用技術の進化、新技術、節電、耐震対策等、常に古い知識との入れ替えができる大切な場となっております。技術者会が今後とも末永く継続することを願っております。

（城 和田 吉茲）

## 吾輩も猫である

吾輩も猫である。飼猫なので名前はある。昨年5月頃、日本のテレビのニュースに吾輩の動画が出たようである。そう、男の子を襲った犬に体当りして男の子を救った、あの感心な猫の動画である。唯、あの動画は日本では種問題を提起したようである。

まず、誰が撮影したのか？男の子が犬に襲われても撮り続け、男の子を主体に撮影されていた状況から保護者の撮影と思われる。日本では親の子供への虐待がかなり報じられているが、吾輩の国でも同様なのかと思われる。しかし事實は、あの動画は防犯ビデオの映像であり、我が子が襲われたことに気付いた母親が脱兎の如く駆け寄り、子供を抱きしめて我が家に駆去りましたので御安心を。

次に、犬が放置されているという治安上の問題であるが、

あの犬は隣家の飼犬と判明したので、その問題は解消されたとのことである。

唯、新たな問題が生じたようである。何せ訴訟大国といわれる国での出来事であり、男の子は脚に傷を負っていることから、吾輩の飼主と隣家の関係は穏やかな修復を迎えられるのかと心配している。

それ以上の問題は吾輩にある。あれ以来、吾輩は我が家では英雄であり、男の子も吾輩を大事にしてくれる。食事のグレードも随分と上がり、あの時のような俊敏な動きが不可能な体型となったことである。日本の猫派を一時喜ばせたが、現状を知らせる訳にはいかない。ライオンやトラと同種の遺伝子を持つといわれる吾輩としては、恥ずかしい限りである。申し遅れましたが、吾輩はメス猫で、名前は「タラ」である。

(井野 今井 章文)

## 頭痛膏

今の若い人に「頭痛膏って知ってる」と聞いたら「それ何ですか」って云うでしょうね。それは私が小学生の頃の頭痛薬なのです。

私の母は色の白いふくらした顔立ちで、よくまめに働いていましたが、頭痛持ちだったらしいのです。私も小さかったのですが、聞いた事もなかったのですが、今思えば寝込む程でもないけれど頭が痛かったのでしょうか。

そんな時いつも額の両側に白い二枚角位の頭痛膏を貼っていました。表面は布で裏側にハツカが塗ってあって、それを舐めて額に貼るのです。貼るとハツカがすうすうして気持ちよく、いくらか痛みをやわらげたのでしよう。

かなり強い臭いで母の傍にゆくと、私の方へも臭いが移りそうな程でした。一日位は額に貼りついていますが、二、

三日たつと乾いてとれてしまいます。母はそれを舐めて又ぺたんと貼っていました。

私もいたずらして一度貼ってみましたが、口の中がすうすうしてハツカの臭いが口の中にいっぱい広がりしばらく困りました。

今なら数知れず頭痛薬がすぐ使えるのに七、八十年前はそんな薬で満足してたのでしようか。定期的に廻ってくる富山の薬屋さんが持つてくる薬袋が、茶の間の壁にかけてあるのを今でも覚えています。その中には熊の胆という苦い薬や、黄色の粒の毒消しも入っていました。

今では頭痛膏など貼っている人もいませんが、いつか歌舞伎の芝居の中で、あの白い頭痛膏を貼った役者がいたので、母を思いだし一人笑ってしまいました。

(稲荷台 林 久子)

## 3月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鏑木町198-3

URL [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

### さくら道

先日、「房総のむら」に行きました。大小の古墳群に隣接して昔の商家や農家、武家屋敷が再現建築されています。その中の武家屋敷は結構質素なもので、今にも武士の子供が隣の部屋から駆け出してきました。庭の井戸の中を現代の子供が珍しそうにのぞいていました。

この武家屋敷は現代の庶民

の一戸建住宅に近く、当時の武士も現代のサラリーマンと境遇が近いものがあります。異なるのは電気ガス水道がないことですが、部屋の区切りは戸一枚でプライバシーが保てないことも実感しました。それでも結構楽しく暮らしていたのかと思いつながらパンフレットをよく見ると、この家は佐倉市に現存する武家屋敷の武井家住宅をモデルにしていると書かれていました。

（金親 邦行）

### あとがき

一昨年、孫が根郷保育園に4カ月間お世話になったが、在園中の写真ができたとの連絡を受け、1カ月後の12月に娘と孫は保育園を訪れた。久しぶりの再会にひとしきり遊んだ後、帰る段になってみんなに「バイバイ」と声をかけると、日頃は腕白な一人の男児が「良いお年を！」と挨拶してくれたという。娘は「あまりのギャップにすぐに

は返事ができなかつたけど、とつても可愛かつたよ」と話してくれた。

今年のお正月、4日まで我家に居た娘家族が帰る時、車の窓から顔を出して「お世話になりました」と孫が言った。大人は全員「え？」という顔。子供達は皆、大人を観察している。そして真似をする。子供の前では正しく美しい日本語を話さねば…と改めて考えさせられた年始であった。

（猪俣 民子）